同志社大学
2023 年度卒業論文

論題：父親が娘の異性不安に及ぼす影響について

社会学部社会学科
学籍番号：1109201060
氏名：野村　夕梨
指導教員：立木　茂雄
本文の総文字数:20014

父親が娘の異性不安に及ぼす影響について

学籍番号：1109201060
氏名：野村夕梨

要旨

本稿では、父子関係に焦点を当て、その中でも特に父親が娘に及ぼす影響について調査・考察を行ったものである。男性の育児休業取得率は年々上昇し、社会的に父親の育児参加の必要性が周知されるようになってきている。しかし、筆者はこの父親の育児参加の必要性について疑問を抱き、自身の経験から異性との人間関係には異性の親、つまり娘にとっての父親との人間関係が影響しているのではないかと考えた。そこで、父親が娘の異性不安に及ぼす影響について、筆者と同年代の女性を対象に質問紙調査を実施し、先行研究の尺度を使用して相関分析を行い、考察した。その結果、父親は娘の異性不安に影響を及ぼすことが示唆され、父親の育児参加においては、娘にとってどのような父親であるかが重要であり、「小学生のころの父親が冷淡な父であると、同時に過保護で統制的であり、自由にさせてくれないと感じ、娘は異性不安が高くなりやすい」ということが明らかになった。

キーワード：父子関係、娘、冷淡な父、異性不安

目次

1　はじめに……1
1.1　問題の背景と目的……1
1.2　先行研究と仮説……1
2　調査方法……5
3　結果……7
3.1　単純集計……7
⑴親和的で優しい父の各項目……7
⑵過保護で統制的な父の各項目……12
⑶自由にさせてくれる父の各項目……15
⑷冷淡な父の各項目……19
⑸異性不安の各項目……21
3.2　相関分析……26
4　考察……28
5　結論……29
参考文献……29

1　はじめに

1.1　問題の背景と目的

厚生労働省が発表した令和 3 年度雇用均等基本調査（厚生労働省 2021）によると、男性の育児休業の取得率は 9 年連続で上昇し、過去最高の 13.97%となっている。前年度比では 1.32 ポイント増にとどまっており、「2025 年までに男性の育休取得率 30%」を掲げる政府目標とは大きな差があるが、父親の育児参加の必要性が社会的に周知されるようになってきているのは事実である。しかし、筆者は父親が家庭内で別居していたということもあり、母親一人に育てられたという意識が圧倒的に強く、この「父親の育児参加の必要性」をそれほど感じてこなかった。

一方で、私自身が大学に入学してから異性と仲良くなるということに抵抗があることに気づき、当初は女子高に通っていたことが理由であると思っていたが、同性の友人と話をする中で、兄弟がいない私は、父親との関係が影響しているという可能性もあると考えた。卒業論文のテーマを決めたのは「父親の育児参加は本当に必要か」「子どもに良い影響を与えないなら居なくてもいいのではないか」という疑問を持ったことがきっかけであり、本稿の目的は、父親が娘の異性不安に及ぼす影響について明らかにすることである。

1.2　先行研究と仮説

父親に関する先行研究では、育児行動について父親に質問紙調査を行ったものが多く、その子どもは幼児であるため、子どもには調査を行っていない。また、親子のうち、親の方に着目して親子関係を研究しているものがほとんどであった。今までなされていた親子研究は母と娘、父と息子という同性の親との関係を対象にしたものが多く、父と娘を対象にしたものが多くは見つからなかった。以下、父親が育児参加することについて先行研究で明らかになっていることをまとめた。

母親の育児不安は父親の育児態度にあることを問題視した住田正樹は、園児とその父親・母親を対象に質問紙調査をおこない、父親の育児態度と母親の育児不安の関連について「父親とのコミュニケーションの頻度が高いと母親が評価し、かつ父親もそのように評価している場合に、父親の育児態度に対する母親の満足度は高く、母親の育児不安は低い」「父親の育児行為や育児参加に対する母親の評価が高いほど父親の育児態度に対する母親の満足度は高い。しかし母親の育児不安が低いとは限らない」ということを明らかにし、「夫婦ともに育児についてのコミュニケーションが十分とられていると評価し、また育児についての意識・意見が夫婦間で一致している場合は、父親の育児参加・育児行為の実際のいかんにかかわらず、母親は父親の育児態度に満足し、母親の育児不安は低い」とまとめた（住田 2014）。

また、男性の育児意識の多様化着目した加野泉は父親の育児意識を「癒しとしての育児」「レジャーとしての育児・自分らしさの表現」「しつけ・教育のための育児」「家庭責任の分担としての育児」の大きく 4 つに分類し、2013 年 7 月に約一万人を対象に実施された国立社会保障・人口問題研究所「第 5 回全国家庭動向調査」をもとに、乳幼児期の子どもと父親のかかわりが年々深くなっていることを明らかにしている（加野 2016）。しかし、このような夫の育児への関わり方について、実は母親の満足度は高くないという結果も 2013 年の同調査で明らかにな

っていると述べた。これについて、加野はインタビューをおこない、母親の社会的地位や経済力に関わらず、子どもにとっては、主に母親だけと接して育つよりも、乳幼児の頃から複数の人と深く関わる方が良いのだという認識を多くの母親が持っており、父親への役割期待を大きくしているからだという見解を示した（加野 2016)。

そして、父親の育児参加にはどのような効果があるのか、石井クンツ昌子の研究では子どもの幼少期における「子どもの社会性の向上」「子どもの情緒的安定」「母親の情緒的安定」「良好な夫婦関係の構築」が挙げられ、父親も母親と同じように深く接することで、子どもの行動範囲や遊びの幅が広がり、多様な人間関係やコミュニケーションについて学ぶことができ、情緒が安定するとともに社会性が向上し、さらに父親と乳幼児の関わりは、体を使った遊び行為が多いという傾向があるため、遊びの中で、子どもが自分をコントロールしながら他者からの攻撃的な行動に対処できるようになる傾向が見られると指摘している（石井 2013)。

このように、従来の家族社会学の研究において親子関係と言えば、幼児とその両親の関係性の研究、他方では介護が必要となるような高齢者とその子どもとの関係性について論じられることが多かった(木下 1996)。

つまり、親子関係とは保護の依存の関係として捉えられてきたと考えた正岡寛司は、子どもが生まれた直後には子供を保護する役割を担っていた者が、高齢者になるにつれて今度は子どもに依存することになると述べている（正岡 1993)。

このように、家族内での関係性に着目するならば、この保護と依存を期待される役割が次第に逆転していくという仮定が成り立つから、昨今の家族をめぐる問題が子育てと介護であることを考えてみても、親子関係が開始される時期と終焉を迎える時期に研究が集中することは、それ自体価値があると考え若者の親子関係に着目した苫米地伸は、青少年研究会が 2002 年に行った調査のデータから、脱青年期の若者の姿を導き出した。分析のステップとして、親との同居と、学卒、就職、そして結婚というイベントの経験の有無をベースにして議論を進め、それぞれの段階での親子関係の満足度などに注目しながら、脱青年期の若者たちを表すキーワードとしての「豊かさ」を確認し、この「豊かさ」の指標としては、生活の満足度を、必要に応じて具体的な行動項目を交えて分析している。苫米地の分析では、若者自身は、自分たちの生活にそれなりの満足度を示しつつ、同居しているなら親へ金を渡すような、一見すれば古めかしい家族規範に従った若者像であり、そういった古めかしい家族規範のなかで営まれる親子関係への意識は、それほど大きな変化を示しているとは思われず、バブル期に一時的にでも変化したのかもしれないが、現在では元に戻ったと解釈するのが妥当だとしている（苫米地 2006)。

寺見陽子は父親研究や父親をめぐる諸課題と今日の時代的背景を踏まえ、これからの父親が、父として、その自覚と自信を高める父になるために、また、子どもとともに育ちあうプログラムの在り方を探ることを目的とした研究をおこなった。父親の仕事と就労状況、子育て意識、家事育児への関与、子育てをめぐる夫婦関係、子育てサポートと育児講座等への参加に関する実態調査の結果をまとめ、父親の親との関係、父親自身の愛着パターン、生育過程における子どもなどとのふれあい経験の有無についても調査している。それらのデータをもとに、父親の養育性・育児行動と役割意識の形成を規定する要因について分析し、父親の支援プログラム開発の視点の導出を試み、さらに父親の実際の子育て生活と調査研究との整合性について、父親インタビューを通して質的に検討し、まとめた。調査は父親に質問紙を配布して行い、父親自身の母親・父親との関係、養育性、愛着、育児行動、夫婦関係について回答を求め、その分析

の結果、子育て中の父親の育児行動を規定する諸要因の基礎に父親自身の自分の親および母親との親和的な関係性があり、そのもとで「安定的愛着」を形成されることが示され、それが今度は妻や自分の子どもといった他者との関係性にも影響を与え、妻や子どもとの関係が良好なものになり、それによって父親は積極的に育児を行うことが示唆された。

また、「冷淡な父」によって養育され、「回避的愛着」を獲得した父親は、他者に対して親密な関係を嫌うため、他者である妻や子どもとの関係も親密性を欠くことになり、妻との関係では「良好な夫婦関係」を築くことができず、また我が子との関係においても「育児に対する自信の無さ」を持つことになり、その結果として「育児行動」を積極的に行わないことが示唆された。ここで、父親が「回避的愛着」を獲得するにあたって、「冷淡な父」から「回避的愛着」へのパスは有意であるが、母親からの影響は有意ではなかったという点に注目するべきである。この研究では、子どもを持つ父親の育児行動の基礎に父親自身の父親との関係性が関与していること、さらにその影響が母親よりも同性である父親の方が強いということが明らかになっているが、子どもの性別との関係は考察されていない（寺見 2019）。

両親のペアレンティングが未就園児の社会的行動に及ぼす影響について父親・母親にアンケートを行い、園児の行動を調査した加藤邦子の研究では、母子の愛着関係と父親の子どもとの関係関与性は、双方とも直接子どもの社会的行動に関連していること、父親の育児量が多くなると父親と子どもとの関係関与性が高まることが明らかになっている（加藤 2017）。しかし、この研究では、研究多少の父親の教育歴は大学卒以上が 8 割、母親は短大卒が約半分で大学卒以上が 4 割程度であり、高学歴者のみを対象とした研究であること、また、両親のペアレンティングから子どもの社会的行動への影響のみで、逆に影響を与えるような相乗的相互作用については明らかになっていない。

日本における父娘関係について、発達心理学・臨床心理学における研究や指摘などを振り返り、考察した春日由美は、父娘関係は娘にとって 2 つの側面から重要であると考え、そのひとつは娘の人格形成の種々の側面への影響、そしてもうひとつは父親から娘への愛情面であり、それは娘にとって重要な心理的支えになると述べた（春日 2000）。日本では父親も娘も、父親は娘にとって「やさしい」存在であると捉えており、また、そのような日本における父親の「やさしさ」を、子どもたちは「母親的やさしさ」であると感じている。しかし、父親から娘への愛情は、母親から娘への愛情よりも距離を保った、「見守る眼」のようなものである（春日 2000）。というように、娘からみた「父親」と「母親」の違いに着目している。春日は、心理学の視点から、父娘関係が良好であること、そして娘が父親から保護されていると感じることが、女子・女性が自分の女性という性を受け入れることを促進させるようであり、そしてそれらを前提条件とした、父・娘のどちらか一方方向からではなく、父から娘へ、あるいは娘から父へという父と娘の相互の関係、あるいは娘の心の中での父親との内的対話が、女子・女性の性役割・性同一性に影響を及ぼすという考えを示し、父親と母親を娘にとって同様の役割を持つものとして、父母の差を量的な差のみで検討するのは不十分であると指摘し、父親と母親は異なる側面で重要な影響を与えていると述べた（春日 2000）。

父親の育児参加には子どもの社会性の向上に効果があることが石井による研究で明らかになったことや、冷淡な父であれば回避的愛着を獲得するという寺見の研究の結果から、どのような父親を持つかによって、子どもにおける人間関係に影響があると考えた。自身の経験も踏まえた上で、本稿では「小学生のころの父親との関係が上手くいっていれば、今の異性との人

間関係が上手くいきやすい」という仮説を立てた。具体的には、親和的で優しい父であるほど、異性不安が低くなりやすい、過保護で統制的な父であるほど、どちらかと言えば異性不安が低くなりやすい、自由にさせてくれる父であるほど、どちらかと言えば異性不安が高くなりやすい、冷淡な父であるほど異性不安が高くなりやすい、という仮説であり、図１に独立変数から従属変数へ影響を与える方向に矢印を付けた仮説の図を示す。

また、本稿における仮説は、父親の育児行動を規定する諸要因の基礎に父親自身の自分の親および母親との親和的な関係性があり、そのもとで「安定的愛着」を形成されることと、冷淡な父」によって養育され、「回避的愛着」を獲得した父親は、他者に対して親密な関係を嫌うため、他者である妻や子どもとの関係も親密性を欠くようになるということが示唆された、寺見（2019）の先行研究を参考にしている。

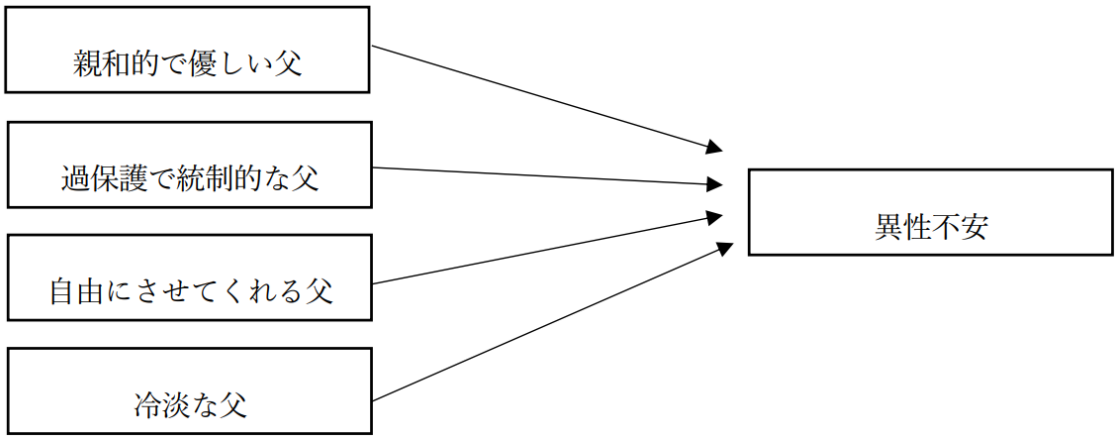

図１　仮説図

2 調査方法

調査は 2023 年 11 月 30 日から 12 月 10 日にかけて Google Forms で質問紙を作成して行い、筆者と同年代の学生から回答を得た。男性と父親がいなかった回答者を除き、女性 86 名（18 歳:1 名、19 歳:2 名、20 歳:4 名、21 歳:20 名、22 歳:51 名、23 歳:2 名、24 歳:3 名、25 歳:3 名）を分析対象とした。

質問紙の内容については、最初に性別・年齢・父親の有無、それ以降は表 1 と表 2 に示す通りで、選択肢は「全く当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」「あまり当てはまらない」「やや当てはまる」「かなり当てはまる」「非常によく当てはまる」の 6 段階に統一した。
独立変数は表 1 のように「親和的で優しい父」「過保護で統制的な父」「自由にさせてくれる父」「冷淡な父」の 4 つであり、どんな父親だったかを尋ねる項目が 23 項目で、これは寺見が行った調査の尺度を使用している（寺見 2019）。どのような父親であったかを尋ねる際、質問紙には「あなたが小学生のころ、あなたの父親は以下のことをどの程度してくれていましたか。それぞれの質問について最も当てはまる選択肢をお選びください。」というリード文を入れている。小学生のころに限定する理由は、精神分析家で発達心理学者のエリクソンが提唱した「ライフサイクル」という概念に基づく。生活の主な場所や時間が保護者から学校や同年代へと舞台が移っていく時期である学童期は、子どもが同年代の友人に興味・関心を抱き、行動を共にしながら、自分の得意・不得意を感じ取っていく段階で、その際に自分は苦難を乗り越えられるという有能感を養うのである。よって、父親との関係について最も重視するべき期間は、小学生のころであるといえる。の従属変数にあたる「異性不安」は表 2 のように、回答者の現在について尋ねたもので、これは富重健一が異性との人間関係について研究を行った際の「異性不安尺度」を使用している（富重 2000）。

独立変数として使用する「○○な父」について、信頼性分析の結果をまとめる。8 項目からなる「親和的で優しい父」の尺度について信頼性分析を行った結果、クロンバックの α 係数は 0.891 であり、十分な内的整合性が認められたため、この 8 項目の合計点をもって親和的で優しい父のスコアとして使用した。6 項目からなる「過保護で統制的な父」の尺度について信頼性分析を行った結果、クロンバックの α 係数は 0.837 であり、十分な内的整合性が認められたため、この 6 項目の合計点をもって過保護で統制的な父のスコアとして使用した。6 項目からなる「自由にさせてくれる父」の尺度について信頼性分析を行った結果、クロンバックの α 係数は 0.879 であり、十分な内的整合性が認められたため、この 6 項目の合計点をもって自由にさせてくれる父のスコアとして使用した。3 項目からなる「冷淡な父」の尺度について信頼性分析を行った結果、クロンバックの α 係数は 0.753 であり、十分な内的整合性が認められたため、この 3 項目の合計点をもって冷淡な父のスコアとして使用した。

従属変数として使用する「異性不安」についても、9 項目からなる「異性不安尺度」について信頼性分析を行った結果、クロンバックの α 係数は 0.839 であり、十分な内的整合性が認められたため、この 9 項目の合計点をもって異性不安スコアとして使用した。

表 1　独立変数の質問項目

	質問項目
親和的で優しい父	1 私にたえずほほえみかけてくれていた。 2 気分的に混乱したようなときは、気持ちを落ちつかせてくれた。 3 私とあれこれ話し合うのを楽しみにしていた。 4 いつも温かく親しみのある声で話しかけてくれた。 5 私の抱えている問題や悩みを理解していてくれたと思う。 6 私と話し合うということはなかった。（逆転項目） 7 私をほめてくれたことがなかった。（逆転項目） 8 私が必要としたり、望んでいることを理解しているとは思えなかった。（逆転項目）
過保護で統制的な父	9 私のする事は何でもコントロールしたがった。 10 私をつとめて親に依存させようとしていた。 11 私のことを親がいなければ自分のことも処理できないと思っていた。 12 私のプライバシーを無視していた。 13 私には過保護だった。 14 私を子ども扱いしがちだった。
自由にさせてくれる父	15 私の望みのままに、 自由にさせてくれた。 16 私が望めば、いつも外出させてくれた。 17 どんな服装をしようと私の好きなようにさせてくれた。 18 私のしたいたいていのことはやらせてくれた。 19 私自身に決定を下させた。 20 ものごとを、私が自分自身で決めるのを望んでいた。
冷淡な父	21 私には、気持ちの上で冷たかった。 22 私が望んでいるのに十分助けてくれなかった。 23 自分は求められていない存在だと思い知らされた。

表 2　従属変数の質問項目

	質問項目
異性不安	1 異性の友人に話しかけるときも、 同性の友人に話かけるときと同じくらい気楽にやれる。 2 異性と一緒にいるとき、 私は内気になることがある。 3 異性に電話をかけるとき、 ドキドキしたりすることはない。（逆転項目） 4 異性にものを尋ねるのが苦手だ。 5 異性の前だと思うようにふるまえないような気がある。 6 初対面の異性と話すとき、 たいていリラックスしている。（逆転項目） 7 概して、 私は異性と付き合うのが苦手である。 8 異性に接するときに緊張することはめったにない。（逆転項目） 9 異性と話をするときは、 自分のいいたいことをうまく伝えられないような気がする。

3　結果

3.1 単純集計

(1) 親和的で優しい父の各項目

「私にたえずほほえみかけてくれていた。」という質問に対し、最も回答者が多かったのは有効パーセントが 34.9%の「やや当てはまる」、次いで多かったのが有効パーセント 29.1%の「かなり当てはまる」であった。しかし、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 11.6%と 3 番目に少なかった。また、「全く当てはまらない」という回答が有効パーセント 3.5%と特に少なく、極端な選択肢を回答する人は少なかった。次いで「ほとんど当てはまらない」という回答が有効パーセントが 7.0%と少なかった（表 3 を参照）。

表 3　「私にたえずほほえみかけてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	3	3.4	3.5	3.5
	ほとんど当てはまらない	6	6.7	7.0	10.5
	あまり当てはまらない	12	13.5	14.0	24.4
	やや当てはまる	30	33.7	34.9	59.3
	かなり当てはまる	25	28.1	29.1	88.4
	非常によく当てはまる	10	11.2	11.6	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「気分的に混乱したようなときは、気持ちを落ち着かせてくれた。」という質問に対して、回答者が多かったのは「やや当てはまる」(有効パーセント 30.2%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 26.7%)で、その他「全く当てはまらない」が有効パーセント 11.6%、「ほとんど当てはまらない」が同じく有効パーセント 11.6%、「かなり当てはまる」が有効パーセント 10.5%、「非常によく当てはまる」が有効パーセント 9.3%と、4 つの選択肢でほぼ均等に分かれ、曖昧な選択肢に回答者数が多く集まる結果となった（表 4 を参照）。

表 4　「気分的に混乱したようなときは、気持ちを落ち着かせてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	10	11.2	11.6	11.6
	ほとんど当てはまらない	10	11.2	11.6	23.3
	あまり当てはまらない	23	25.8	26.7	50.0
	やや当てはまる	26	29.2	30.2	80.2
	かなり当てはまる	9	10.1	10.5	90.7
	非常によく当てはまる	8	9.0	9.3	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私とあれこれ話し合うのを楽しみにしていた。」という質問では、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 33.7%で最も多く、次いで多かったのが「非常によく当てはまる」で有効パーセントが 20.9%であった。また、「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 3.5%、「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 8.1%と少ない結果となった。「全く当てはまらない」、「ほとんど当てはまらない」、「あまり当てはまらない」、「かなり当てはまる」、「非常によく当てはまる」という選択肢では、回答者数は階段状になっているが、「やや当てはまる」という選択肢だけが突出して多かった。(表 5 を参照)。

表 5　「私とあれこれ話し合うのを楽しみにしていた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	3	3.4	3.5	3.5
	ほとんど当てはまらない	7	7.9	8.1	11.6
	あまり当てはまらない	14	15.7	16.3	27.9
	やや当てはまる	29	32.6	33.7	61.6
	かなり当てはまる	15	16.9	17.4	79.1
	非常によく当てはまる	18	20.2	20.9	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「いつも温かく親しみのある声で話しかけてくれた。」という質問に対しては、「やや当てはまる」(有効パーセント 39.5%)と回答した人が特に多く、次いで「かなり当てはまる」(有効パーセント 18.6%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 20.9%)と、当てはまると回答した人が多かった。また、「全く当てはまらない」(有効パーセント 2.3%)と、当てはまらないと回答した人が特に少なく、次いで「あまり当てはまらない」(有効パーセント 9.3%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 9.3%)、と回答した人が並んで少なかった。(表 6 を参照)。

表 6「いつも温かく親しみのある声で話しかけてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	2	2.2	2.3	2.3
	ほとんど当てはまらない	8	9.0	9.3	11.6
	あまり当てはまらない	8	9.0	9.3	20.9
	やや当てはまる	34	38.2	39.5	60.5
	かなり当てはまる	16	18.0	18.6	79.1
	非常によく当てはまる	18	20.2	20.9	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私の抱えている問題や悩みを理解してくれていたと思う。」という質問に対し、最も回答者が多かったのは「あまり当てはまらない」(30.2%)で、次いで「やや当てはまる」(有効パーセント 27.9%)が多く、曖昧な選択肢に回答が集まる結果となった。一方で、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 8.1%、「かなり当てはまる」と回答した人は有効パーセント 7.0%と、比較的少なかった。また、「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 15.1%、「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 11.6%と、どちらかと言えば当てはまらないと回答する人が比較的多くなる結果となった。(表 7 を参照)。

表 7　「私の抱えている問題や悩みを理解してくれていたと思う」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	10	11.2	11.6	11.6
	ほとんど当てはまらない	13	14.6	15.1	26.7
	あまり当てはまらない	26	29.2	30.2	57.0
	やや当てはまる	24	27.0	27.9	84.9
	かなり当てはまる	6	6.7	7.0	91.9
	非常によく当てはまる	7	7.9	8.1	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私と話し合うということはなかった。(逆転項目)」という質問では、「非常によく当てはまる」と回答した人が有効パーセント 3.5%で特に少なかった。また、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 27.9%で最も多く、次いで「あまり当てはまらない」(有効パーセント 20.9%)、と回答した人が多かった。「全く当てはまらない」と回答した人が比較的多く、有効パーセントは 18.6%であった。曖昧な選択肢に回答が集まる結果ではあったが、ここでは極端な選択肢である「全く当てはまらない」にも回答者が多くなった (表 8 を参照)。

表 8　「私と話し合うということはなかった。(逆転項目)」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	16	18.0	18.6	18.6
	ほとんど当てはまらない	12	13.5	14.0	32.6
	あまり当てはまらない	18	20.2	20.9	53.5
	やや当てはまる	24	27.0	27.9	81.4
	かなり当てはまる	13	14.6	15.1	96.5
	非常によく当てはまる	3	3.4	3.5	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私をほめてくれたことがなかった。(逆転項目)」という質問では、「全く当てはまらない」(有効パーセント 33.7%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 24.4%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 23.3%)、「やや当てはまる」(有効パーセント 12.8%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 4.7%)と回答者を表すヒストグラムが階段状になる結果となった。一方で、「非常によく当てはまる」と回答した人は 0 人だった。(表 9 を参照)。

表 9　「私をほめてくれたことがなかった。(逆転項目)」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	30	33.7	34.9	34.9
	ほとんど当てはまらない	21	23.6	24.4	59.3
	あまり当てはまらない	20	22.5	23.3	82.6
	やや当てはまる	11	12.4	12.8	95.3
	かなり当てはまる	4	4.5	4.7	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私が必要としたり、望んでいることを理解しているとは思えなかった。(逆転項目)」という質問に対し、「かなり当てはまる」(有効パーセント 7.0%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 7.0%)と回答した人が並んで特に少なかった。また、「あまり当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 25.6%で最も多く、次いで「やや当てはまる」と回答した人が多く、「全く当てはまらない」と回答した人と、「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 19.8%で並んだ（表 10 を参照)。

表 10　「私が必要としたり、望んでいることを理解しているとは思えなかった。(逆転項目)」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	17	19.1	19.8	19.8
	ほとんど当てはまらない	17	19.1	19.8	39.5
	あまり当てはまらない	22	24.7	25.6	65.1
	やや当てはまる	18	20.2	20.9	86.0
	かなり当てはまる	6	6.7	7.0	93.0
	非常によく当てはまる	6	6.7	7.0	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

表 11 は、親和的で優しい父の各項目について、平均値、中央値、標準偏差、最小値、最大値を示したものである。「～してくれた」という形式の質問では、比較的当てはまると答えやすく、「～してくれなかった」という形式の質問では比較的当てはまらないと答えやすい。

表 11　親和的で優しい父の各項目の要約統計量

		親和的で優しい父：私にたえずほほえみかけてくれていた。	親和的で優しい父：気分的に混乱したようなときは、気持ちを落ちつかせてくれた。	親和的で優しい父：私とあれこれ話し合うのを楽しみにしていた。	親和的で優しい父：いつも温かく親しみのある声で話しかけてくれた。
度数	有効	86	86	86	86
	欠損値	3	3	3	3
平均値		4.14	3.44	4.16	4.26
中央値		4.00	3.50	4.00	4.00
標準偏差		1.219	1.403	1.345	1.285
最小値		1	1	1	1
最大値		6	6	6	6

		親和的で優しい父：私の抱えている問題や悩みを理解していてくれたと思う。	親和的で優しい父：私と話し合うということはなかった。（逆転項目）	親和的で優しい父：私をほめてくれたことがなかった。（逆転項目）	親和的で優しい父：私が必要としたり、望んでいることを理解しているとは思えなかった。（逆転項目）
度数	有効	86	86	86	86
	欠損値	3	3	3	3
平均値		3.28	3.17	2.28	2.97
中央値		3.00	3.00	2.00	3.00
標準偏差		1.360	1.441	1.204	1.459
最小値		1	1	1	1
最大値		6	6	5	6

(2) 過保護で統制的な父の各項目

「私のする事は何でもコントロールしたがった。」という質問に対して、「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 50.0%と特に多くなる結果となった。また、「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 15.1%、「やや当てはまる」、「あまり当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 11.6%で並び、次いで「かなり当てはまる」(有効パーセント 8.1%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 3.5%)と回答した人が少なくなる結果となった（表 12 を参照)。

表 12　「私のする事は何でもコントロールしたがった」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	43	48.3	50.0	50.0
	ほとんど当てはまらない	13	14.6	15.1	65.1
	あまり当てはまらない	10	11.2	11.6	76.7
	やや当てはまる	10	11.2	11.6	88.4
	かなり当てはまる	7	7.9	8.1	96.5
	非常によく当てはまる	3	3.4	3.5	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私をつとめて親に依存させようとしていた」という質問に対して、「全く当てはまらない」と回答する人が有効パーセント 60.5%で特に多かった。次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 22.1%で多く、その他は「やや当てはまる」(有効パーセント 5.8%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 2.3%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 1.2%)と、当てはまると回答した人全体で 23.3%と少なかった（表 13 を参照)。

表 13　「私をつとめて親に依存させようとしていた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	52	58.4	60.5	60.5
	ほとんど当てはまらない	19	21.3	22.1	82.6
	あまり当てはまらない	7	7.9	8.1	90.7
	やや当てはまる	5	5.6	5.8	96.5
	かなり当てはまる	2	2.2	2.3	98.8
	非常によく当てはまる	1	1.1	1.2	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私のことを親がいなければ自分のことも処理できないと思っていた。」という質問では「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 48.8%で特に多く、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 25.6%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 11.6%)、「やや当てはまる」(有効パーセント 9.3%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 3.5%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 1.2%)と当てはまると回答した人が全体で 14%と少なくなる結果となった（表 14 を参照)。

表 14　「私のことを親がいなければ自分のことも処理できないと思っていた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	42	47.2	48.8	48.8
	ほとんど当てはまらない	22	24.7	25.6	74.4
	あまり当てはまらない	10	11.2	11.6	86.0
	やや当てはまる	8	9.0	9.3	95.3
	かなり当てはまる	3	3.4	3.5	98.8
	非常によく当てはまる	1	1.1	1.2	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私のプライバシーを無視していた。」という質問では「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 48.8%で最も多く、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 20.9%で多かった。一方で、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 14.0%で多くなる結果となった（表 15 を参照)。

表 15　「私のプライバシーを無視していた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	42	47.2	48.8	48.8
	ほとんど当てはまらない	18	20.2	20.9	69.8
	あまり当てはまらない	8	9.0	9.3	79.1
	やや当てはまる	12	13.5	14.0	93.0
	かなり当てはまる	2	2.2	2.3	95.3
	非常によく当てはまる	4	4.5	4.7	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私には過保護だった。」という質問に対して、特に回答者が多かったのは「やや当てはまる」で、有効パーセントが 27.9%であった。一方で、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 10.5%と最も少なく、次いで「かなり当てはまる」と回答した人が有効パーセント 12.8%で少なかった。また、「あまり当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 18.6%で 2 番目に多く、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 16.3%、「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 14.0%であった。(表 16 を参照)。

表 16　「私には過保護だった」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	12	13.5	14.0	14.0
	ほとんど当てはまらない	14	15.7	16.3	30.2
	あまり当てはまらない	16	18.0	18.6	48.8
	やや当てはまる	24	27.0	27.9	76.7
	かなり当てはまる	11	12.4	12.8	89.5
	非常によく当てはまる	9	10.1	10.5	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私を子ども扱いしがちだった。」という質問では「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 31.4%で最も多かった。一方で「全く当てはまらない」(有効パーセント 9.3%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 5.8%)と、極端な選択肢の回答者は少なかった (表 17 を参照)。

表 17　「私を子ども扱いしがちだった」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	8	9.0	9.3	9.3
	ほとんど当てはまらない	16	18.0	18.6	27.9
	あまり当てはまらない	17	19.1	19.8	47.7
	やや当てはまる	27	30.3	31.4	79.1
	かなり当てはまる	13	14.6	15.1	94.2
	非常によく当てはまる	5	5.6	5.8	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

表 18 は、過保護で統制的な父の各項目について、平均値、中央値、標準偏差、最小値、最大値を示したものである。「私をつとめて親に依存させようとしていた」という質問や、「私のことを親がいなければ自分のことも処理できないと思っていた」という質問は、極端な質問であるため、回答も極端な選択肢を選ぶ人が多かった。

表 18　過保護で統制的な父の各項目の要約統計量

		過保護で統制的な父：私のする事は何でもコントロールしたがった。	過保護で統制的な父：私をつとめて親に依存させようとしていた。	過保護で統制的な父：私のことを親がいなければ自分のことも処理できないと思っていた。	過保護で統制的な父：私のプライバシーを無視していた。	過保護で統制的な父：私には過保護だった。	過保護で統制的な父：私を子ども扱いしがちだった。
度数	有効	86	86	86	86	86	86
	欠損値	3	3	3	3	3	3
平均値		2.23	1.71	1.97	2.14	3.41	3.42
中央値		1.50	1.00	2.00	2.00	4.00	4.00
標準偏差		1.531	1.115	1.222	1.448	1.521	1.359
最小値		1	1	1	1	1	1
最大値		6	6	6	6	6	6

(3)　自由にさせてくれる父の各項目

「私の望みのままに、自由にさせてくれた。」という質問に対して、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 36.0%で最も多く、次いで「かなり当てはまる」と回答した人が有効パーセント 26.7%、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 17.4%で多かった。一方で、「全く当てはまらない」(有効パーセント 3.5%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 4.7%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 11.6%)と、当てはまらないと回答した人が全体で 19.8%と少なくなる結果となった（表 19 を参照)。

表 19　「私の望みのままに、自由にさせてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	3	3.4	3.5	3.5
	ほとんど当てはまらない	4	4.5	4.7	8.1
	あまり当てはまらない	10	11.2	11.6	19.8
	やや当てはまる	31	34.8	36.0	55.8
	かなり当てはまる	23	25.8	26.7	82.6
	非常によく当てはまる	15	16.9	17.4	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私が望めば、いつも外出させてくれた。」という質問では、「全く当てはまらない」(有効パーセント 3.5%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 7.0%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 10.5%)、「やや当てはまる」(有効パーセント 19.8%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 27.9%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 31.4%)と、回答者を表すヒストグラムが階段状になる結果となった（表 20 を参照)。

表 20　「私が望めば、いつも外出させてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	3	3.4	3.5	3.5
	ほとんど当てはまらない	6	6.7	7.0	10.5
	あまり当てはまらない	9	10.1	10.5	20.9
	やや当てはまる	17	19.1	19.8	40.7
	かなり当てはまる	24	27.0	27.9	68.6
	非常によく当てはまる	27	30.3	31.4	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「どんな服装をしようと私の好きなようにさせてくれた。」という質問に対して、「非常によく当てはまる」と回答した人が有効パーセント 45.3%で特に多く、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 24.4%、「あまり当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 22.1%で多く、「全く当てはまらない」(有効パーセント 1.2%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 2.3%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 4.7%)と、当てはまらないと回答した人が全体で 8.1%とかなり少なかった（表 21 を参照)。

表 21　「どんな服装をしようと私の好きなようにさせてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	1	1.1	1.2	1.2
	ほとんど当てはまらない	2	2.2	2.3	3.5
	あまり当てはまらない	4	4.5	4.7	8.1
	やや当てはまる	19	21.3	22.1	30.2
	かなり当てはまる	21	23.6	24.4	54.7
	非常によく当てはまる	39	43.8	45.3	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私のしたい、たいていのことはやらせてくれた。」という質問に対して、「かなり当てはまる」と回答した人が有効パーセント 38.4%で最も多く、次いで「非常によく当てはまる」と回答した人が有効パーセント 30.2%、「やや当てはまる」と回答した人は有効パーセント 19.8%で多かった。一方で、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 5.8%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 5.8%)と並び、当てはまらないと回答した人が全体で 11.6%と少なく、「全く当てはまらない」と回答した人は 0 人だった（表 22 を参照)。

表 22　「私のしたい、たいていのことはやらせてくれた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ほとんど当てはまらない	5	5.6	5.8	5.8
	あまり当てはまらない	5	5.6	5.8	11.6
	やや当てはまる	17	19.1	19.8	31.4
	かなり当てはまる	33	37.1	38.4	69.8
	非常によく当てはまる	26	29.2	30.2	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私自身に決定を下させた。」という質問では、「やや当てはまる」(有効パーセント 31.4%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 27.9%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 25.6%)と、当てはまると回答した人が多比較的多かった。また、「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 1.2%と特に少なく、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 3.5%、「あまり当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 10.5%であり、当てはまらないと回答した人は全体で 15.1%と少なくなる結果となった（表 23 を参照)。

表 23　「私自身に決定を下させた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	1	1.1	1.2	1.2
	ほとんど当てはまらない	3	3.4	3.5	4.7
	あまり当てはまらない	9	10.1	10.5	15.1
	やや当てはまる	27	30.3	31.4	46.5
	かなり当てはまる	24	27.0	27.9	74.4
	非常によく当てはまる	22	24.7	25.6	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「ものごとを、私が自分自身で決めるのを望んでいた。」という質問に対して、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 37.2%で最も多く、次いで「かなり当てはまる」と回答した人が有効パーセント 29.1%、「非常によく当てはまる」回答した人は有効パーセント 16.3%で多かった。一方で「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 1.2%で特に少なく、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 4.7%、「あまり当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 11.6%であり、当てはまらないと回答した人は全体で 17.4%と少なくなる結果となった（表 24 を参照）。

表 24　「ものごとを、私が自分自身で決めるのを望んでいた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	1	1.1	1.2	1.2
	ほとんど当てはまらない	4	4.5	4.7	5.8
	あまり当てはまらない	10	11.2	11.6	17.4
	やや当てはまる	32	36.0	37.2	54.7
	かなり当てはまる	25	28.1	29.1	83.7
	非常によく当てはまる	14	15.7	16.3	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

表 25 は、自由にさせてくれる父の各項目について、平均値、中央値、標準偏差、最小値、最大値を示したものである。自由にさせてくれる父の質問項目は「～してくれた」や「～させてくれた」という形式の質問が多く、当てはまると回答する人が多かった。

表 25　自由にさせてくれる父の各項目の要約統計量

		自由にさせてくれる父：私の望みのままに、自由にさせてくれた。	自由にさせてくれる父：私が望めば、いつも外出させてくれた。	自由にさせてくれる父：どんな服装をしようと私の好きなようにさせてくれた。	自由にさせてくれる父：私のしたいたいていのことはやらせてくれた。	自由にさせてくれる父：私自身に決定を下させた。	自由にさせてくれる父：ものごとを、私が自分自身で決めるのを望んでいた。
度数	有効	86	86	86	86	86	86
	欠損値	3	3	3	3	3	3
平均値		4.30	4.56	5.02	4.81	4.58	4.37
中央値		4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00
標準偏差		1.228	1.394	1.127	1.112	1.153	1.107
最小値		1	1	1	2	1	1
最大値		6	6	6	6	6	6

(4) 冷淡な父の各項目

「私には、気持ちの上で冷たかった。」という質問に対して、「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 45.3%で最も多く、次いで「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 23.3%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 17.4%)と当てはまらないと回答した人が多かった。また、「やや当てはまる」と回答した人は有効パーセント 9.3%、「かなり当てはまる」と回答した人は有効パーセント 4.7%、「非常によく当てはまる」と回答した人は 0 人であり、当てはまると回答した人は全体で 14.0%と少なくなる結果となった（表 26 を参照)。

表 26　「私には、気持ちの上で冷たかった」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	39	43.8	45.3	45.3
	ほとんど当てはまらない	20	22.5	23.3	68.6
	あまり当てはまらない	15	16.9	17.4	86.0
	やや当てはまる	8	9.0	9.3	95.3
	かなり当てはまる	4	4.5	4.7	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「私が望んでいるのに十分助けてくれなかった。」という質問では、「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 40.7%で特に多く、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 24.4%、「あまり当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 23.3%で多かった。また、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 1.2%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 2.3%)、「やや当てはまる」(有効パーセント 8.1%)と、当てはまると回答した人が全体で 11.6%で少なくなる結果となった（表 27 を参照)。

表 27　「私が望んでいるのに十分助けてくれなかった」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	35	39.3	40.7	40.7
	ほとんど当てはまらない	21	23.6	24.4	65.1
	あまり当てはまらない	20	22.5	23.3	88.4
	やや当てはまる	7	7.9	8.1	96.5
	かなり当てはまる	2	2.2	2.3	98.8
	非常によく当てはまる	1	1.1	1.2	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「自分は求められていない存在だと思い知られた。」という質問では、「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 60.5%で最も多く、次いで「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 22.1%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 12.8%)と当てはまらないと回答した人が多かった。一方で、「やや当てはまる」(有効パーセント 2.3%)、「かなり当てはまる」(有効パーセント 2.3%)と、当てはまると回答した人が少なく、「非常によく当てはまる」と回答した人は 0 人であり、当てはまると回答した人は全体で 4.6%と少なくなる結果となった(表 28 を参照)。

表 28　「自分は求められていない存在だと思い知られた」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	52	58.4	60.5	60.5
	ほとんど当てはまらない	19	21.3	22.1	82.6
	あまり当てはまらない	11	12.4	12.8	95.3
	やや当てはまる	2	2.2	2.3	97.7
	かなり当てはまる	2	2.2	2.3	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

表 29 は、冷淡な父の各項目について、平均値、中央値、標準偏差、最小値、最大値を示したものである。冷淡な父の質問項目は「私には、気持ちの上で冷たかった」「私が望んでいるのに十分助けてくれなかった」「自分は求められていない存在だと思い知らされた」の 3 つの項目のみであり、質問内容が極端であったため、回答者も極端な選択肢を選ぶ人が多かった。

表 29　冷淡な父の各項目の要約統計量

		冷淡な父:私には、気持ちの上で冷たかった。	冷淡な父: 私が望んでいるのに十分助けてくれなかった。	冷淡な父:自分は求められていない存在だと思い知らされた。
度数	有効	86	86	86
	欠損値	3	3	3
平均値		2.05	2.10	1.64
中央値		2.00	2.00	1.00
標準偏差		1.197	1.168	.957
最小値		1	1	1
最大値		5	6	5

(5) 異性不安の各項目

「異性の友人に話しかけるときも、同性の友人に話しかけるときと同じくらい気楽にやれる。」という質問に対して、「かなり当てはまる」と回答した人が有効パーセント 24.4%で最も多かった。その他は「全く当てはまらない」(有効パーセント 11.6%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 15.1%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 17.4%)、「やや当てはまる」(有効パーセント 17.4%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 14.0%)と、回答者がばらける結果となった（表 30 を参照)。

表 30　「異性の友人に話しかけるときも、同性の友人に話しかけるときと同じくらい気楽にやれる」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	10	11.2	11.6	11.6
	ほとんど当てはまらない	13	14.6	15.1	26.7
	あまり当てはまらない	15	16.9	17.4	44.2
	やや当てはまる	15	16.9	17.4	61.6
	かなり当てはまる	21	23.6	24.4	86.0
	非常によく当てはまる	12	13.5	14.0	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「異性と一緒にいるとき、私は内気になることがある。」という質問では、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 29.1%で最も多かったが、次いで多かったのは「ほとんど当てはまらない」という回答で有効パーセントは 22.1%であった。また、「あまり当てはまらない」と回答した人と、「かなり当てはまる」と回答した人は有効パーセント 15.1%で並んでおり、「全く当てはまらない」(有効パーセント 9.3%)、「非常によく当てはまる」(有効パーセント 9.3%)と、極端な選択肢の回答者は少なかった（表 31 を参照)。

表 31　「異性と一緒にいるとき、私は内気になることがある」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	8	9.0	9.3	9.3
	ほとんど当てはまらない	19	21.3	22.1	31.4
	あまり当てはまらない	13	14.6	15.1	46.5
	やや当てはまる	25	28.1	29.1	75.6
	かなり当てはまる	13	14.6	15.1	90.7
	非常によく当てはまる	8	9.0	9.3	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「異性に電話をかけるとき、ドキドキしたりすることはない。(逆転項目)」という質問では「あまり当てはまらない」と回答した人有効パーセント 23.3%で最も多く、次いで「ほとんど当てはまらない」と回答した人と、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 22.1%と並び、「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 16.3%であった。また、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 7.0%で最も少なく、「かなり当てはまる」と回答した人は有効パーセント 9.3%で少なかった（表 32 を参照)。

表 32　「異性に電話をかけるとき、ドキドキしたりすることはない(逆転項目)」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	14	15.7	16.3	16.3
	ほとんど当てはまらない	19	21.3	22.1	38.4
	あまり当てはまらない	20	22.5	23.3	61.6
	やや当てはまる	19	21.3	22.1	83.7
	かなり当てはまる	8	9.0	9.3	93.0
	非常によく当てはまる	6	6.7	7.0	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「異性にものを尋ねるのが苦手だ。」という質問に対し、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 25.6%で最も多かったが、次いで回答者が多かったのは「全く当てはまらない」(有効パーセント 17.4%)、「ほとんど当てはまらない」(有効パーセント 15.1%)、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 16.3%)であった。また、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 15.1%であり、極端な選択肢にも比較的回答者が多かった（表 33 を参照)。

表 33　「異性にものを尋ねるのが苦手だ」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	15	16.9	17.4	17.4
	ほとんど当てはまらない	13	14.6	15.1	32.6
	あまり当てはまらない	14	15.7	16.3	48.8
	やや当てはまる	22	24.7	25.6	74.4
	かなり当てはまる	9	10.1	10.5	84.9
	非常によく当てはまる	13	14.6	15.1	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「異性の前だと思うようにふるまえないような気がある。」という質問に対して、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 24,4%で最も多く、「あまり当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 9.3%で最も少なかった。また、「全く当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 12.8%、「ほとんど当てはまらない」と回答した人は有効パーセント 22.1%、「かなり当てはまる」と回答した人は有効パーセント 20.9%、「非常によく当てはまる」と回答した人は有効パーセント 10.5%であった。(表 34 を参照)。

表 34　「異性の前だと思うようにふるまえないような気がある」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	11	12.4	12.8	12.8
	ほとんど当てはまらない	19	21.3	22.1	34.9
	あまり当てはまらない	8	9.0	9.3	44.2
	やや当てはまる	21	23.6	24.4	68.6
	かなり当てはまる	18	20.2	20.9	89.5
	非常によく当てはまる	9	10.1	10.5	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「初対面の異性と話すとき、たいていリラックスしている。(逆転項目)」という質問では、「非常によく当てはまる」と回答した人が有効パーセント 1.2%で特に少なく、次いで「かなり当てはまる」と回答した人は有効パーセント 11.6%、「やや当てはまる」と回答した人は有効パーセント 16.3%と比較的当てはまると回答した人が少なくなる結果となった。また、「全く当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 20.9%、「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 26.7%、「あまり当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 23.3%と、当てはまらないと回答した人が全体で 70.9%と多くなる結果となった (表 35 を参照)。

表 35　「初対面の異性と話すとき、たいていリラックスしている(逆転項目)」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	18	20.2	20.9	20.9
	ほとんど当てはまらない	23	25.8	26.7	47.7
	あまり当てはまらない	20	22.5	23.3	70.9
	やや当てはまる	14	15.7	16.3	87.2
	かなり当てはまる	10	11.2	11.6	98.8
	非常によく当てはまる	1	1.1	1.2	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「概して、私は異性と付き合うのが苦手である。」という質問に対して、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 24.4%で最も多かった。また、「ほとんど当てはまらない」と回答した人も有効パーセント 20.9%で多い結果となった。最も少なかったのは「非常によく当てはまる」と回答した人と「かなり当てはまる」と回答した人で有効パーセントは 12.8%であった（表 36 を参照）。

表 36　「概して、私は異性と付き合うのが苦手である」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	12	13.5	14.0	14.0
	ほとんど当てはまらない	18	20.2	20.9	34.9
	あまり当てはまらない	13	14.6	15.1	50.0
	やや当てはまる	21	23.6	24.4	74.4
	かなり当てはまる	11	12.4	12.8	87.2
	非常によく当てはまる	11	12.4	12.8	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「異性に接するときに緊張することはめったにない。(逆転項目)」という質問に対して、「ほとんど当てはまらない」と回答した人が有効パーセント 24.4%で最も多かった。次いで、「あまり当てはまらない」(有効パーセント 19.8%)、「やや当てはまる」(有効パーセント 19.8%)と、比較的曖昧な選択肢の回答が多かった。一方で、最も少なかったのは「非常によく当てはまる」と回答した人で、有効パーセントは 8.1%であった。次いで「かなり当てはまる」と回答した人が有効パーセント 10.5%で少なくなる結果となった（表 37 を参照）。

表 37　「異性に接するときに緊張することはめったにない(逆転項目)」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	15	16.9	17.4	17.4
	ほとんど当てはまらない	21	23.6	24.4	41.9
	あまり当てはまらない	17	19.1	19.8	61.6
	やや当てはまる	17	19.1	19.8	81.4
	かなり当てはまる	9	10.1	10.5	91.9
	非常によく当てはまる	7	7.9	8.1	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

「異性と話をするときは、自分のいいたいことをうまく伝えられないような気がする。」という質問では、「やや当てはまる」と回答した人が有効パーセント 31.4%で最も多かったが、「非常によく当てはまる」という極端な選択肢になると有効パーセントが 7.0%と少なくなる結果となった（表 38 を参照）。

表 38　「異性と話をするときは、自分のいいたいことをうまく伝えられないような気がする」度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全く当てはまらない	14	15.7	16.3	16.3
	ほとんど当てはまらない	16	18.0	18.6	34.9
	あまり当てはまらない	12	13.5	14.0	48.8
	やや当てはまる	27	30.3	31.4	80.2
	かなり当てはまる	11	12.4	12.8	93.0
	非常によく当てはまる	6	6.7	7.0	100.0
	合計	86	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	3.4		
合計		89	100.0		

表 39 は、異性不安の各項目について、平均値、中央値、標準偏差、最小値、最大値を示したものである。

表 39　異性不安の各項目の要約統計量

		異性不安：異性の友人に話しかけるときも、同性の友人に話かけるときと同じくらい気楽にやれる。	異性不安：異性と一緒にいるとき、私は内気になることがある。	異性不安：異性に電話をかけるとき、ドキドキしたりすることはない。（逆転項目）	異性不安：異性にものを尋ねるのが苦手だ。	異性不安：異性の前だと思うようにふるまえないような気がある。
度数	有効	86	86	86	86	86
	欠損値	3	3	3	3	3
平均値		3.70	3.47	3.07	3.42	3.50
中央値		4.00	4.00	3.00	4.00	4.00
標準偏差		1.602	1.461	1.454	1.655	1.592
最小値		1	1	1	1	1
最大値		6	6	6	6	6

		異性不安：初対面の異性と話すとき、たいていリラックスしている。（逆転項目）	異性不安：概して、私は異性と付き合うのが苦手である。	異性不安：異性に接するときに緊張することはめったにない。（逆転項目）	異性不安：異性と話をするときは、自分のいいたいことをうまく伝えられないような気がする。
度数	有効	86	86	86	86
	欠損値	3	3	3	3
平均値		2.74	3.40	3.06	3.27
中央値		3.00	3.50	3.00	4.00
標準偏差		1.339	1.596	1.521	1.498
最小値		1	1	1	1
最大値		6	6	6	6

3.2　相関分析

以下に、独立変数と従属変数について相関分析を行った結果（表 40 を参照）と散布図を提示する。

表 40　親和的で優しい父スコア・過保護で統制的な父スコア・自由にさせてくれる父スコア・冷淡な父スコアと異性不安スコアの相関分析結果

	親和的で優しい父スコア	過保護で統制的な父スコア	自由にさせてくれる父スコア	冷淡な父スコア
異性不安スコア	-0.024	0.104	-0.118	.220
有意確率	0.827	0.341	0.281	0.042

親和的で優しい父と異性不安について相関分析を行った結果、有意な相関は確認されなかった（r=－0.024，p=0.827）。過保護で統制的な父と異性不安について相関分析を行った結果、有意な相関は確認されなかった（r=0.104，p=0.341）。自由にさせてくれる父と異性不安について相関分析を行った結果、有意な相関は確認されなかった（r=－0.118，p=0.281）。冷淡な父と異性不安について相関分析を行った結果、有意な正の相関があった。（r=0.220，p=0.042）。つまり、冷淡な父であると、異性不安が高まりやすい。(図 2 を参照)

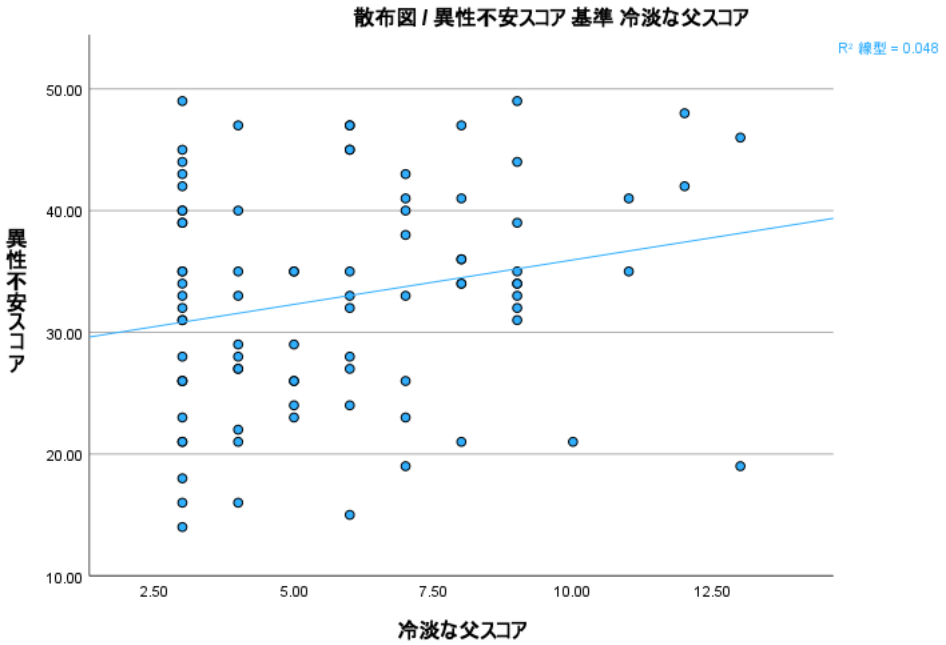

図 2　冷淡な父と異性不安の散布図

表 41 は、親和的で優しい父スコア、過保護で統制的な父スコア、自由にさせてくれる父スコア、冷淡な父スコアと、異性不安スコアについて相関分析を行った結果を表に示したものであるが、本稿で独立変数とした「親和的で優しい父」「過保護で統制的な父」「自由にさせてくれる父」「冷淡な父」と、従属変数とした「異性不安」の間の相関以外に、有意な相関が見つかった。その結果を以下にまとめる。

表 41　親和的で優しい父スコア・過保護で統制的な父スコア・自由にさせてくれる父スコアと冷淡な父スコアの相関分析結果

	親和的で優しい父スコア	過保護で統制的な父スコア	自由にさせてくれる父スコア
冷淡な父スコア	-.403	.512	-.452
有意確率	0.000	0.000	0.000

親和的で優しい父と自由にさせてくれる父について相関分析を行った結果、有意な正の相関があった。(r=0.309, p=0.004)。つまり、親和的で優しい父であるほど、自由にさせてくれる父である可能性が高い。過保護で統制的な父と自由にさせてくれる父について相関分析を行った結果、有意な負の相関があった。(r=－0.660, p=0.000)。つまり、過保護で統制的な父であるほど、自由にさせてくれる父ではない可能性が高い。冷淡な父と親和的で優しい父について相関分析を行った結果、有意な負の相関があった。(r=－0.403, p=0.000)。つまり、冷淡な父であるほど、親和的で優しい父ではない可能性が高い。冷淡な父と過保護で統制的な父について相関分析を行った結果、有意な正の相関があった。(r=0.512, p=0.000)。つまり、冷淡な父であるほど、過保護で統制的な父である可能性が高い。冷淡な父と自由にさせてくれる父について相関分析を行った結果、有意な負の相関があった。(r=－0.452, p=0.000)。つまり、冷淡な父であるほど、自由にさせてくれる父ではない可能性が高い。図 3 には、冷淡な父は娘の異性不安を高める影響を与えることを矢印で示し、冷淡な父であるほど親和的で優しい父ではない可能性が高いこと、冷淡な父であるほど過保護で統制的な父である可能性が高いこと、冷淡な父であるほど自由にさせてくれる父ではない可能性が高いことを双方向の矢印で示している。

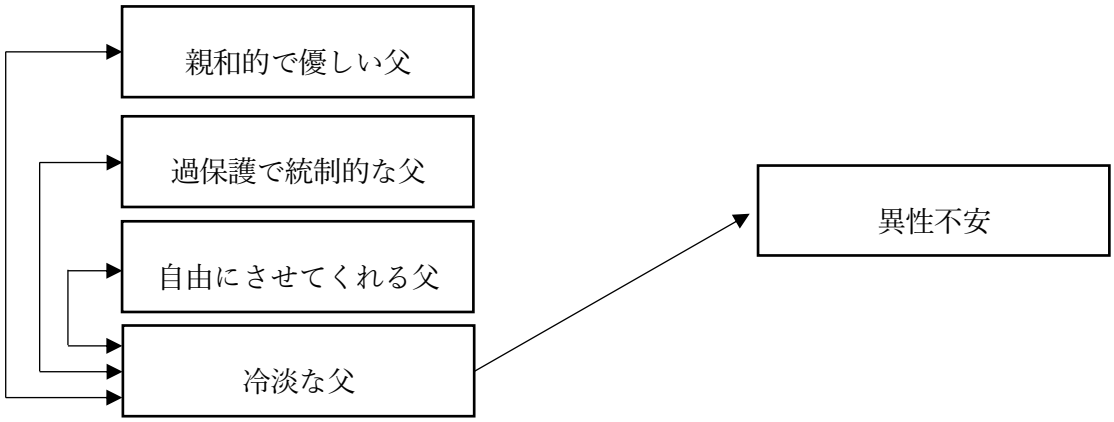

図 3　仮説検証結果

4　考察

本稿では、「小学生のころの父親との関係が上手くいっていれば、今の異性との人間関係が上手くいきやすい」という仮説について検討を行った。検討する上で、最も注目したいのは冷淡な父と異性不安についての相関分析の結果である。冷淡な父と異性不安の間に有意な正の相関が確認されたことから、冷淡な父であるほど娘の異性不安が高くなりやすいということが明らかになり、仮説通りの結果となった。これは寺見による調査（寺見 2019）でも示唆された、「冷淡な父」によって養育され「回避的愛着」を獲得した父親は他者に対して親密な関係を嫌う、という先行研究の結果を補強するものであるといえる。また、これまでの親子関係についての先行研究では母子を対象にしたものが多く、父子を対象にしたものが少なかったことや、父子関係の先行研究でも、親に焦点を当てた調査が多かったことから、本稿における結果は、父子関係を新しい視点から研究した調査であったといえる。

このように、娘にとって冷淡な父であれば、娘の異性不安が高くなりやすいという結果が出たが、同時に、娘にとって親和的で優しい父であるからといって異性不安が低くなるわけではないという結果になった。また、娘にとって過保護で統制的な父であっても異性不安に影響が出るというわけではなく、自由にさせてくれる父であるからといって異性不安に何か変化があることも無かった。このことから、この調査では、娘を持つ父親の育児参加において必要なことは「優しくすること」「過保護になること」「自由にさせること」よりも、とにかく「冷淡であると感じさせないこと」であるということが示唆されたと言える。これは春日による調査（春日 2000）で述べられていたような、母親から娘への愛情よりも距離を保った、「見守る眼」のようなやさしさが、娘にとっては重要な心理的支えになるということが示唆されたといえる。

一方で、冷淡な父の尺度は 3 項目と他の尺度に比べて少なく、質問内容が「私には、気持ちの上で冷たかった。」「私が望んでいるのに、十分助けてくれなかった。」「自分は求められていない存在だと思い知らされた」というように極端であった。このため、「非常によく当てはまる」を選択する人が 0 人となり、回答者は当てはまらないと回答しやすく、信頼性分析におけるクロンバックのα係数が他の尺度と比べて低くなったと考えられる。また、「親和的で優しい父」「過保護で統制的な父」「自由にさせてくれる父」と「異性不安」の間に有意な相関は確認されなかったが、それぞれの図を見ると、親和的で優しい父と異性不安にはわずかな負の相関、過保護で統制的な父と異性不安にはわずかな正の相関、自由にさせてくれる父と異性不安にはわずかな負の相関がみられる。この結果が有意であれば仮説をさらに補強することが出来たが、有意ではなかったため、今回の調査では、母集団において変数間に関連があるとはいえない。

また、本稿で独立変数とした「親和的で優しい父」「過保護で統制的な父」「自由にさせてくれる父」「冷淡な父」と、従属変数とした「異性不安」の間の相関以外に、有意な相関が見つかった。まず、親和的で優しい父であるほど、自由にさせてくれる父である可能性が高い、そして、過保護で統制的な父であるほど、自由にさせてくれる父ではない可能性が高い、冷淡な父であるほど、親和的で優しい父ではない可能性が高い。この結果については、対照的な父親のタイプの相関であるため、当然の結果であるように思える。一方で興味深かったのが、冷淡な父であるほど、過保護で統制的な父である可能性が高い、という結果と、冷淡な父であるほど、自由にさせてくれる父ではない可能性が高いという結果である。この結果から、小学生のころの娘からみた父親が冷淡であると、同時に過保護で統制的であり、自由にさせてくれないと感じているということが分かった。以上のことから、「冷淡な父であるほど娘の異性不安が高くなりやすい」という仮説通りの結果に重ねて、「小学生のころの父親が冷淡な父であると、同時に過保護で統制的であり、自由にさせてくれないと感じ、娘は異性不安が高くなりやすい」ということが示唆されたといえる。

5　結論

本稿では、父親の育児参加の必要性が社会的に周知されるようになってきていることと、筆者自身の経験がきっかけとなって生まれた疑問から、父親が娘の異性不安に及ぼす影響について明らかにすることを目的に研究を進めてきた。先行研究に基づいて質問紙を作成し、回答を集め、冷淡な父と異性不安について相関分析を行った結果、有意な正の相関がみられ、冷淡な父であると異性不安が高まりやすいということが明らかになり、小学生のころの父親が冷淡な父であると、同時に過保護で統制的であり、自由にさせてくれないと感じ、娘は異性不安が高くなりやすいと考察した。

このような結果が得られたことから、自分自身の問い「父親の育児参加は本当に必要か」に対する答えは「どのような父親であるかが重要である」ということになる。今回の研究では父親がいなかった場合や、男兄弟の有無については触れていないため、一概に「必要・不必要」ということはできない。

改めて、本稿では「冷淡な父は、娘の異性不安を高めるという影響がある」ことが分かった。今回の研究は、娘を持つ父親となった人・なる人へ、ただ育児休業を取得しても娘から見て冷淡な父であれば、娘の異性不安に影響があるということを示唆するという点で意義があるといえる。また筆者自身にとっても、自らの疑問を解決するという点で意義があった。

今回の調査では父親のみを対象にしたが、母親と比較することで、さらに父親が娘に及ぼす影響が明らかになる可能性もあるし、娘に兄弟がいる場合もまた、違う影響があるのではないかと考えられる。今後は家族から父と娘だけを取り出した研究に留まらず、様々な家族構成における父子関係の研究が進められることが期待される。

参考文献

Evans，Richard I，1967，*Dialogue with Erik Erikson*，New York : Joanna Cotler Books.（岡堂哲雄，中園正身訳，1981，『エリクソンは語る――アイデンティティの心理学』新曜社.）

石井クンツ昌子，2013，『「育メン」現象の社会学――育児・子育て参加への希望を叶えるために』ミネルヴァ書房.

春日由美，2000，「日本における父娘関係研究の展望――娘にとっての父親」『九州大学心理学研究』1: 157-171.

加藤邦子，2017，『良心のペアレンティングが未就園児の社会的行動に及ぼす影響――包括的理論の構築とその実証的検証』風間書房.

加野泉，2016，『妻はなぜ、夫のがんばりを認められないのか――子育てにおける夫婦の意識ギャップ』池谷壽夫・市川季夫・加野泉編「男性問題から見る現代日本社会」はるか書房 pp.110-132.

木下栄二，1996，「親子関係研究の展開と課題」野々山久也・袖井孝子・篠崎正美編『いま家族に何が起こっているのか』ミネルヴァ書房，136-158.

厚生労働省，2021，『令和 3 年度雇用均等基本調査』.

正岡寛司，1993「ライフコースにおける親子関係の発達的変化」森岡清美監修『家族社会学の展開』，培風館，65-79.

住田正樹，2014『子ども社会学の現在――いじめ・問題行動・育児不安の構造』九州大学出版.会.

寺見陽子編，2019『現代の父親の親意識と子育て実践――父親の養育性・役割取得を促す教育プログラムの開発について』ナカニシヤ出版.

苫米地伸，2006「脱青年期と親子関係」岩田考・羽渕一代・菊池裕生・苫米地伸編『若者たちのコミュニケーションサバイバル――親密さのゆくえ』恒星社厚生閣.